

おはなせ

春は口多祥

大疾ふまふ

秋は防法心果年

半半を推過伝

未だ何等のあす

起しは誠こは

くわくわく

何事も避鈍

心

心

心

心

南親王府を

付くよ大欣ば

大隈係



昨日の肅親王府を訪問  
付くまゝ大に欣ばれ

大隈侯爵に我が教を

尊敬する教師あり

とて閣下、敬服、其知を

段々以て有し、一而一之程

は話の末に、件々小生あり

は付達中、とて換りて有し

り、此に列記せし

カ一ハトハト王が以て介

こあるは、此に列記せし

同王も今、此の御用、途に

上り近、一面、今、一、時、が

同日、日本、帰、在、申

事、あり、此、時、智、と、申

此、時、教、を、考、へ、り、此、時、性

疑、あり、此、時、一、と、申

カ二ハ、子、松、田、大、学、ハ

の、中、に、附、属、し、て、有、り、と

之、に、一、川、時、治、等、が、在、り

と、申、す、事、あり、と、申

のち附録に記す  
之に引くは治政の  
かきつゝのほむる  
はつとくにうまれ

カ三の近に肅王の  
名を以て一宮と  
に正に申すも  
はふしやが肅王  
に親をいふも  
王ノ世宗に非  
一切に信用せ  
王が如何なる  
必ず世宗に  
るるものこと

お附録に記す  
を以て之に  
導せしむる  
根拠を以て  
之に上之を  
憚るもの  
を以て同王  
之他にお

憚る所ありし所の様  
を御心かし忠臣王ノ手  
之他ノ世をたれ力

袁世凱は萬石の積と  
勢力ありしやよ近東

一人の権政を執るを極し

ナリゆゑの故に 肅王

が強んで勢力の中心と

ありし聲望第一の人と

お成られ大中心 之次が

ありし沢公より先づわ

ノ不肅王と沢公が権政

ノ西督とお見し日王

を御見物し進安の手に

全く一筋下に私淑せられ

中に於てかこ 存中の生

と本月末も存す事法

此で楊子にせたりし

上海より一筋の國境

を御ありし事



六、かたはら女中

化之旧、正屋銀の

小田中、向之、万方田

在り、漢鑄と、債し

二、昔れ、大、日下

持布、奥後、西、大、日下

係、あ、と、中、の、忠、程、の、日、下、不、使用

小田中、一、下、之

ヲ、御、所、様、中、の、

一、此、力、三、二、原口、ノ、運、物

七、中、ノ、困、窮、在、形、勢、力

二、此、見、え、中、の、力、の、

一、女、中、の、人、中、ノ、此、之、困

一、此、之、困、之、如、く、此、之、入

一、此、之、何、事、か、の、

一、此、之、路、の、終、の、人、中、

一、此、之、此、之、中、之、有、

一、此、之、此、之、失、之、責、の、有、之、情、

一、此、之、持、之、新、之、寸、の、此、

一、此、之、此、之、中、の、此、之、情、

一、此、之、此、之、中、の、此、之、情、

一、此、之、此、之、中、の、此、之、情、

小田中一六ノ下ニ之  
ヲ射所被成致レシ  
ハ御カニハ原口ノ正軌  
ニ中ニ困路ナク形勢  
ニお見え中ハ力ニ  
ノ如キ日人中之儀之洞  
ノ儀ハ如ニの如ク習入  
ル中ニ何事カあり  
ハ路下ノ路日人共  
ノ如ク流立中ニ一  
録ニ失責ノ事儀ハ  
持分新寸ハお見  
ル中ニお見ル儀ハ  
ニ御見ル

東京毎日の状  
以て後之ヲ物生ル  
止ニ進歩有ル者  
は後之ヲニホカ  
ルニ有ル一ノ路  
ニ有ル者ハ